

平成22年度明蓬館高等学校学校評価について

国から構造改革特別区域計画の認定を受け川崎町が認可した明蓬館高等学校について学校評価を行いましたので公表いたします。

●根拠法令

構造改革特別区域法12条5項

特区の認定を受けた地方公共団体は学校設置会社の設置する学校の教育、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、毎年度、評価を行わなければならない。

評価基準

1＝優れている 2＝良い 3＝おおむね満足 4＝一部要改善 5＝要改善

評価項目	評価における観点	評価結果	評価コメント
学校運営体制	教職員の資質・能力の育成	3	教員歴が長い2名の高校教員を採用し、地元も川崎ということもあり、教育事情もよく理解している。今後、教職員の資質向上や能力育成の為に外部の研修へも積極的に参加することが望まれる。
	生徒指導の状況	1	事情があり、登校できない生徒に対して学校に生徒がいない放課後の時間帯や休みの日に登校させるなど工夫している姿が見られ、個別指導・対応ができています。担任と保護者との連携もとれている。
	地域との連携	2	地元の食品加工団体と連携をはじめた。安宅産梅をつかって梅干し作り講習会を開催したりと、スクーリングの際も地域の人々の力を借りて行っている。

施設・設備の状況	教室等の設置状況	2	別館に調理ができる教室が整備され、調理実習や料理教室が実施可能になった。教室の機能・環境に大きな支障はない。
学習指導の状況	授業の状況	3	二年目ということもあり、ネット授業も充実してきていると感じる。スクールコースも開設され、対面授業も開始された。生徒の興味と関心を高め、懸命に取り組んでいる姿がみられる。
	適切な面接指導の実施	3	7月、10月、1月に3回本校でスクーリングを実施した。5教科の座学の他に、農業体験や調理実習、川崎町の歴史・文化にも触れ充実した指導が行われている。
	問題を抱える生徒への対応	2	学校へも入ることが困難な生徒に対して、担任と保護者で連携し、生徒がいない時間帯や休みの日に登校させ、個別に対応している。担任がフォローできるような体制ができている。
学校設置会社の経営状況	学校経営の安定性	4	学習システム・生徒管理システムへの先行投資負担が重荷になり、赤字が残っている。しかし、昨年に比べ生徒も23名から62名に増加し、校舎に宿泊施設が併設されたことにより注目度が上がってきている。今後は生徒増加に努め、黒字へと転換する努力をする必要がある。
	学校設置による経済的効果	3	安宅交流センターの使用料、宿泊料、飲食費、交通費等で4,031千円の経済波及効果があがっている。学校の職員として、地元の川崎より今年度は2名雇用しているという点もあるため経済的効果はあると考える。
	学校設置による社会的効果	3	生徒一人ひとりのニーズに対応した教育が実施されている。また、区域計画であげていた都市と農村、生徒間の人的交流が起ころはじめ、地域活性化が期待できる。